

6年生 薬物乱用防止教室

日時 : 2校時(1組) 3校時(2組) 4校時(3組)
 授業者: T1 養護教諭 重田佳代
 T2 学校薬剤師 向田慶子

- ねらい
- ・健康な状態より心身をよくなる薬は存在しないことが分かる。
 - ・薬物の誘惑のポイントに気づき、断り方を考えることができる。

	○児童の活動	留意上の留意点
導入 5分 (重田)	○薬剤師の存在について知る。 ○DVDを見る。(3分)	T1 薬剤師を紹介し、仕事を説明する。 T1 4年時のお薬教室を思い出させ、薬は病気やけがを治すものであり、それ以外の効果で誘ってきた場合は、疑うことを伝える。
展開① (向田) 15分	○薬物乱用の意味と薬物の種類について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">知っている薬物の名前をあげてみよう。</div> C) 大麻、覚醒剤、シンナー ○脳の働きと、薬物による脳への影響について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「いちご」を見たときに脳ではどんなことを感じているかな？</div> C) 赤い、果物、前に食べた、酸っぱい	T1 2 パワーポイントを使いながら説明する。 T2 1回でも乱用であること、使用しなくても所持や売買でも違法になることを伝える。 T2 隠語やかわいいパッケージで薬物とわかりにくいものがあることを伝える。 T2 教材を使って、「いちご」を見たときを例に、脳では様々な情報から物を認識していることを確認する。 T2 脳の精密な働きを確認することで、その働きを阻害する薬物の恐ろしさに気付かせる。
展開② 20分 (重田)	○薬物乱用が社会にもたらす影響を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">大麻を乱用した子供を警察に通報した母親は、どんな気持ちだったのかな？</div> C) 悲しい、捕まっても息子を救いたい、 ○薬物誘惑のポイントを知り、断り方について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分ならどのように断るかを考えてよう。</div> 例①友達から「これ使うとすごい頭が働くよ」 例②先輩から「ダイエットにいいよ」 ○誘いを断るために必要な「自分を守る5つのポイント」を知る。 ①自分が大切に思う人 ②自分のことを大切に思ってくれる人 ③自分が好きなもの・こと ④これからやりたいこと・将来の夢 ⑤薬物についての正しい知識	T1 薬物乱用者の告白を読んで、薬物乱用の影響が自らの心身だけでなく、周りにも影響を与えることに気付かせる。 T1 薬物の誘惑に気付く ことが重要であり、見極めのポイントは、「健康な状態をもっとよくするための薬はない」ことを確認する。 T1 できるだけたくさん発表させることで、断り方の例を増やす。 T1 一端受け取ることも罪になる可能性があること、早くその場を離れることを伝える。 T1 自分の頭に思い浮かべるように促す。 T1 誰かの「夢」を例にとり、それを実現させるために必要なことを発表させ、薬物を使用することは脳の機能が壊れ、日々積み重ねたものを一瞬で失ってしまうことを話してまとめとする。
5分	○アンケートに記入する(マークシート)	T1 2 アンケートを配布・回収、リーフレットを配布して終了。